

2019年5月24日

最後に更新してから1度1年がたっしまい、その間何をしていたのかなと、ふと思う。まあ仕事に忙しかったとしか言えないのだけど！ただ世の中はこの1年の間に大分変化した様に思う。

今日は、最近調布の事務所に訪ねてきた「エホバの証人」なる宗教関係者とたまに話をさせてもらっている。彼らの目的は入会を勧めていると思うが、わたしは初めから入会はしないという前提で、キリスト教の聖書について話をお聞きしている。こうした中で、もともと私はキリスト教の神エホバに関して若い(高校生)ころと考え方が変わった。特に宗教関係者のいう神エホバの考え方に感化されたわけではないが、最近この神について、再度考えてみる機会が増えたことにより、若いころ考えていたものと神のとらえ方が変わった。高校生の頃は自分が不完全なものであり、完全者になりたいと考えていた。そしてこの完全者がキリスト教で言う神なのかもしれないと考えていた。

しかしながら聖書の記述には、勿論聖書の原典を見たわけではないし、多分日本語訳の聖書にも神は完全者という記述はなかったように思う。確かに神は全知全能のものと言う記述はあったように思うが、完全なるものという記述はないのではないだろうか！神が完全者でないとすると聖書のいろいろなことに納得がいく。まず神が自然を作り、生物を作り、最後に人間を作ったとあるが、何で神はそんなことをしたのだろうとと思っていた。これは単に神が、神一人では寂しかったに過ぎないのではないかなと思える。また人間を神に似せて作ったのも、単に神の話し相手を作ったのだろうと思われ、完全者でない神は、人間を含めた自然が単にほしかっただけなのかもしれない。こうした様に神は自分の手で、遊び相手を作ったのではないかなと思う。なんと人間らしいことか！つまり今の人間は神に似せて作られているため、今の人間の性質そのものがもともと神にあったのだろう。例えば神が人間に与えた自由意志というものも、与えたのではなくもともと神に似せて作ったのだからすでに備わっていたのだろ。人間が神との約束を破ってエデンの園を追放されたのも納得がいく。人間は神そのものなのだから、神の持っている性格がそのまま現れ出たに過ぎない。また聖書には神と人間の契約が述べられていると言われている。つまり神のいう事を聞く代わりに、違反すれば天罰を与えると。つまり神と同じになることを神は恐れたのではないだろうか！聖書では神の意に反して人間は神に近づこうとして神が思ってもいなかったことをし始めた。神はこれらを人間が墮落したと言って天罰を加えた。つまり約束を破ったため、人間は同じ言語を話せないようにし、ノア一族と一部の生物を残してすべてを滅ぼした。ある意味神は勝手なことをなされたのではないかな？これは神が完全者でないとすると納得のいくことであり、人間を作るとき神自身が完全者とはなんであるかを理解していなかった。最初から人間を完全者にしておけば、後々人間に悩まされることはなかっただろう。神がよく考えて人間を作れば、今更汝隣人を愛せよなどという文言など出てこなかっただろう。簡単に言えば神は何も考えずに人間を神と同じものとして作ってしまったのだ。その後の天罰など神の身勝手が生んだ代物ではないだろうか！まあ神はたいそう人間臭いものなのであろう。神の意に沿わないものは天罰として危害を加えるし、彼らの眷属であっても墮天使、悪魔扱いをして排除するような性格なのである。すなわち人間社会に戦争、紛争がなくなることはないのは、すべて神の責任であることを自覚していない。聖書も神の責任を追及してもいいのではないだろうか？神を侮辱するなど多方面から言われそうなので、とりあえずこの辺でやめておくと、聖書、また聖書の神々をこうした考えのもとに見直してもいいのではないだろうか？ただ聖書の中で神あるいは彼の眷属の方が言っていることどもは人生訓、一思想としては考えるべき点が多々あり、人生の教科書として見ていくのはいいことだと思う。ただやはり一神教的な考え方で人間が自然を管理する、支配するという考え方が強く、私のような日本古来からの多神教的な考え方にはそぐわない。人間は自然と共生している日本古来からの考え方にそぐわない。一神教的な考え方では今後も自然破壊が続くだろうし、多分地球環境の中では忌むべきことではないだろうか？